

# 申14号「組合員と家族の生活確保とモチベーション維持・向上を求める 2021年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ」【交渉の要旨】

申14号交渉では、2.0ヶ月回答への組合員の怒り、生活実感、労働実感、職場現実を会社に突きつけました。しかし、会社は「受け止めている」としながらも、業績を理由に回答を修正しませんでした。それに対し、赤字・コロナ禍における組合員の努力を業績回復後の期末手当の要因と考えるべきと主張したところ、会社は「将来のことはわからない」「都度の判断」だと回答しました。

JR東労組が主張しなければ、赤字下における努力と苦勞が報われないことがはっきりしました。だからこそ、「赤字・コロナ禍における職場の努力に報いて賃金に反映させること」を要求として掲げ、今から要求実現へ向けたたたかいはつくり出して行きましょう！

今のままでは赤字・コロナ禍における努力が報われない！

職場でJR東労組の必要性を議論し、組織拡大へ繋げよう！

	組合の主な主張	会社の主な主張
申14号の主旨について	対前年の業績は回復しているにも関わらず、昨年の夏季手当よりも下回る回答である。	期末手当については、主に短期的な業績、足元の業績、決算状況、経済状況など、様々な勘案して慎重に判断するもの。
	ゴールデンウィーク、4月、5月の鉄道営業収入は対前年に比べて増えている。	業績分析の見方は様々ある。4月、5月は黒線が上がっておらず、今年は業績予想も厳しい。
	我々の主張は去年である。黒字決算という中で、足元を理由に低くされた。今年は赤字で足元が好調なのに足元を見ていない。ここには問題意識がある。指定公共交通の使命を果たすべく、創造的にコストダウンを担い、コロナ禍における新たな業務を担ってきた組合員、社員の努力に報いる必要がある。	悪い業績であっても社員が支えているからさらに悪くならなかった。どんな業績であっても、社員が働くことによって会社が成立している。それは会社として基本的な考え方である。循環をつくるために、業績と、社員と家族の幸福の実現をすることが両輪である。
	昨年の夏季手当を下回ることは納得が出来ない。交渉では7割の組合員、社員が夏季手当を生活費に充てている述べたが、夏季手当が生活費として位置づいていると主張しているが、その認識はあるのか。	支給額自体が下がっているのは承知している。社員それぞれの生活は様々である。一概には言えない。当社の給与水準は、かなり高い水準にある。
	努力を重ねる黒字の中、なぜ賃金が大幅にカットされるのか。どこまで我慢すればいいのか。どこまで身を削って生活を続けたいのか。そのような不満や不安が渦巻いている。会社は、そのような認識はあるのか。	支給月数で比べれば支給額自体が下がっているのは承知している。しっかり黒字化を達成すると共に、社員が安心して働けるために好循環を生み出したい。
	回答が噛み合わない。不満や不安を訴えている。会社に受け止めていただきたい。	現状は厳しいが、今後社員1人ひとりが明るく自信を持って果敢にチャレンジすることで、社員と家族の幸福の実現を目指したい。
	組合員が不満や不安を持っていることに対し、回答しないのか。	不安と緊張を持ってご尽力いただいている。
	安心して働ける状況ではないという組合員の声がある。会社の認識はどうか。	厳しい現状だが、反転していくことが社員の踏ん張りどころである。
	職場では不安や不満が渦巻いている。この認識がなければ先に進めない。	人件費だけを削るわけではない。尽力に報いるように検討している。
	会社回答にあるとおり、社員1人ひとりが明るく自信を持って果敢にチャレンジする。そのためには、人への投資が必要であり、現在の経営状況を踏まえれば、生活をしていくためには、せめて昨年と同数。構造改革にチャレンジ出来るという決意と実行を行う組合員と家族の生活確保。モチベーションの維持・向上のための極めて建設的な組合からの提起である。2.4ヶ月回答を求める。	会社としても、決意と実行の1年である。明るく自信を持ってチャレンジして、構造改革へ取り組み、社員・家族の幸福の実現を果たさなければいけない。申14号でいただいたが、申13号の回答書で2.0ヶ月と回答した。今後安心して働けるようにするためには、会社の持続的な発展が不可欠である。
組合員の声について	赤字コロナ禍の中の経営を我々に押し付けているのではないかと受け止めてある。	現状のままが良いということではない。
	経営が目指している方向性と現場で働いている認識がかけ離れている。生活における苦勞と努力が反映されていない。日々の生活と暮らしに関することが一切記載されていない。多くの組合員から生活が出来ないという声が寄せられている。どこまで我慢すればいいのか。今の会社に魅力はない。この点について会社の認識はどうか。	会社の状況をしっかり理解する上での乖離があると指摘があった。それは望ましいことではないから、今の話がある。好循環と言っているが、しっかりその認識を会社と社員、みんなが理解出来るように、状況をつくって理解を深める形をつくらなければいけない。
	コストダウンを悩んで頑張っている1人ひとりの努力に報いるべき。	極力、職場・支社・本社の距離を縮めて、会社は手を緩めることなく行っている。
	どれだけ我慢しながら生活し、黒字化するために尽力しているのか受け止めていただきたい。一部の声かもしれないが、1人ひとりが積み重なって我々に届いている。	団体交渉でいただいたこと、会社独自で取得したものがあるので、昨日の回答で判断している。
	年収が1割下がり、ローンなどの支払いを貯蓄から切り崩している。車のローンを返す予定が崩れ、安い車に買い替えた。この先の生活が維持出来なくなるところまで来ている組合員、社員がいる。給料水準の高い水準だと話をしているが、なぜ直視しないのか。	住宅ローンは社員個々によって状況が違う。一概に回答は厳しい。
	組合員の実態は実態としてあるのでどう向き合うのか。	会社の状況とすると、初めての赤字で厳しい。踏ん張りどころである。
職場の努力について	交渉では赤字下の職場の努力を認めているが、それが報われない。報われる場をつくるべきである。	悪い決算であっても、さらに悪くならないよう支えているのは社員の努力が事実である。また尽力も見られるものなので、労働組合のみならずと議論して決定する。
	運行確保出来なかったら厳しかったということはその通りである。業績回復後に赤字下の努力に報いる部分を期末手当の都度の要因の1つとして考えることは出来ないのか。	将来のことは分からない。都度議論を経て、時が来た時に会社が判断している。
組合	<p>■コロナ禍の尽力で好循環を生み出す。コロナ禍を乗り越えた上で今があると認識して、今後の手当の判断要素に含むべきである。コロナ禍を乗り越えた尽力を次の時代に引き継ぐのは、改めてやるべきである。</p> <p>■昨年の期末手当の支給額は、30年前の金額と同様で平均年収は約50万円減、21春闘ではJRグループで唯一定期昇給カット、これからの生活設計が成り立たないなど回答は、1987年分割民営化以降、過去最低の回答だ。組合員、そして家族を含めて1年以上のコロナ禍の中を耐えている奮闘と、その上に黒字見通し、ワクチン効果も含めて、明るい兆しが見えている今、組合員の現実を受け止めて、その奮闘に報いることを第一の判断としていないことに、経営幹部のみなさんは危機感を持つべき。</p> <p>■組合員のモチベーションも低下している。会社の回答からは、生活実感に対して重きを置いて触れられていないと認識されていることに危機感があると訴えてきた。第3回交渉で示された回答書の中に、組合員、社員の生活に触れられず、一貫して生活実感に重きを置いて判断したと受け取れなかった。我々は、そのような会社姿勢を危惧し、そのような姿勢はJR東労組としては認められない。</p>	
会社	<p>■都度の状況を踏まえて判断する。都度の状況によって何が含まれるかである。まずは、好循環の方向に向かうようしっかり確実1年で歩んでいきたい。会社としては受け止めて、どこまで支給できるかと判断して出している。</p> <p>■認識が合わないという評価があったが、会社として回答書の書いてある考え方のおりである。</p> <p>■夏季手当について会社としても社員へどんどん話したい。その上で、夏季手当のことだけでなく、先の会社の将来に向けた取り組みについて、社員と一緒に考え、理解出来るように取り組みたい。</p>	

また、社友会を辞めJR東労組に加入した仲間がこのように語っています。「社友会の代表の方に休業指定なんて聞いてない。俺は嫌です」という話をしたら、社友会は反対の意見とかを聞くところではないからと言われた。「議論して良い方に進んで行かなきゃいけないんじゃないですか」と言ったが、何もできないからと言われた。反対の意見だけでなく賛成の意見も受け付けない。もう会社がこうしろと言ったらこうする組織。だとしたらその組織って必要あるのかと感じました。」

**令和3年度の夏季手当について 主な社員の声**  
(夏季手当の回答を受けて)

- ・運輸業界と比較して、こんなにももらえないと思わなかった。
- ・2か月に満たないもっと厳しい数字を想定していた。
- ・そんなに支給されるんですか。世間の声が怖いです。
- ・ローンの支払いができるのでよかった。
- ・うれしいの一言。モチベーションが上がった。
- ・黒字にするために頑張る 等「今後も頑張る」といった前向きな声が多数寄せられました。

**令和2年度の年末手当について 主な社員の声**  
(期末手当の回答を受けて)

- ・航空会社と比較して、こんなにももらえないと思わなかった。
- ・2か月に満たないもっと厳しい数字を想定していた。
- ・そんなに支給されるんですか。世間の声が怖いです。
- ・ローンの支払いができるのでよかった。
- ・うれしいの一言。仕事頑張ります。
- ・黒字にするために頑張る etc.
- ※「これからも頑張る」といった前向きな声が多かったです！

一方、社友会では夏季手当の声を集めて会社に伝えているのですが、まるで昨年の年末手当の社員の声をコピーし、ほんの一部を変えただけのような掲示が張り出されていました。コピーした社員の声が会社に届けられているとしたら大変な問題です。収入減で生活に不安と不満を持った声が会社には届かないことになります。

社友会では不安、不満の声が会社に届かない！雇用と労働条件を守るために、社友会と決別し、JR東労組に結集することを呼びかけよう！